

2 目標達成計画

作成日：平成 21 年 11 月 17 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議での意見の場が少ない。	各分野から、様々な意見・助言等を頂けるように努める。	発言して頂けるよう環境作りを行い、事業所としての現状・今後について相互の共有化を図る。	4ヶ月
2	33	重度化のホームとして機能しているが、終末期については現段階では難しい。	アンケートを通して、家族としてどう考えているか、又、どの様な希望を持っているか確認すると共に共有化していく。	本人が安心・安全に生活して頂けるよう理解を求め、ホームとしての方針を明確にしていく。	6ヶ月
3	25	入居者個々の生活スタイル・リズムは把握しているが、状況(精神的混乱等)に応じた対応に戸惑いがある。	今、本人が何を求めているのかという事を表現・表情からキャッチし、行動を共にし、問題解決出来る為のサポートをしっかりと行う。	認知症の専門的知識(周辺症状等)について研修会等を行い、場の対応に自信を持たせる。	6ヶ月
4	26	介護計画に対する評価は毎月実施しているが、ケアに対する視点もズレが生じていないか気付きが少ない。	入居者さんも職員個々の行動を良く観察している為、自身に対しての余裕を行動・表現から改善し、状況の確認を把握する。	職員会議等で、確認(現状)し合い、入居者のサインを再度検討し、評価・ケアに対するシステムを構築していく。	1ヶ月毎
5	35	災害対策に対する訓練が不足している。非常食訓練は2回程実施している。	どんな状況におかれても、まずは入居者の安全確保に努めなければならない為、マニュアル等を活用し訓練する。	建物外を常に確認しておき、いかなる場面においても安全・安心に誘導出来るよう訓練を重ね、身体で覚えるようにする。	3ヶ月毎
6	46	食の楽しみがあるも、嗜好を変えた提供が少ない。	数・バラエティーに富んだ食材を提供し、自己決定を養い、目で見る楽しみを提供する。	行動の一貫として、家族・ボランティアさんの協力を得られながら、実践にうつしていく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。